

## 第4回茅ヶ崎市民文化会館再整備検討協議会 会議録概要

議題	1 バリアフリー、ユニバーサルデザイン、防災機能について 2 その他
日時	平成21年10月22日(木)14時から16時まで
会議開催場所	茅ヶ崎市役所本庁舎7階第1会議室(B)
出席者氏名	白井 精治、和田 千代子、川口 寛、岩本 一夫、松永 耕作、遠藤 まさみ、吹谷一徳、塚原 康男、杉山 貴子、山内 隆徳 事務局13名(文化推進課3名、建築課4名、エイアンドティ建築研究所 4名、学識経験者2名)
会議の公開・非公開	公開
傍聴数	0名
非公開の理由	—

(事務局)

皆さんこんにちは。定刻を過ぎましたのでただいまから第 4 回の協議会を開催させていただきます。まず始めに私どもからお断りを申し上げます。今回の会議の開催通知をご送付したときに、議題としましては、本日の次第でお配りしている通り、1 番のバリアフリー、ユニバーサルデザイン、防災機能についてと、外部空間改修を予定しておりましたが、今現在、ふれあい橋の改修の件で所管している課と協議中でございますので今の段階で外部空間の改修についてという議題をかけることができません。次回にまわしたいと思います。よろしく申し上げます。

また本日の会議ですが、片岡委員、望月委員の 2 名の方は欠席という連絡が入っております。他の方で、お見えになっていない方がいらっしゃいますが、連絡がない状況です。人数は過半数に達しているので会議は成立するという事で説明させていただきます。それでは会長、よろしく申し上げます。

(杉山会長)

皆様、こんにちは。本日もお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。ただいまから第 4 回茅ヶ崎市民文化会館再整備検討協議会を開催させていただきます。本日は、傍聴の方は、いらっしゃいません。本日も皆様の貴重なお時間なので、活発なご意見をいただきながら、いつも通り進めさせていただきたいと思っておりますのでご協力お願いします。

では早速ですが議題に入ります。議題 1「バリアフリー、ユニバーサルデザイン、防災機能について」を議題といたします。事務局より、説明をお願いします。A&T さんよろしく申し上げます。

(A&T 建築研究所)

お手元には A3 版の図面をお配りしていますが、小さくて読みづらいところもございますのでプロジェクターを使ってご説明させていただきます。

(A&T 建築研究所説明 (プロジェクター使用))

(A&T 建築研究所)

それでは、バリアフリー計画についてご説明させていただきます。まず最初にバリアフリーの基本的な考え方ですが、今ある段差の解消ということで床レベルのフラット化を考えています。フラットに出来ない部分につきましては、階段ではなくできるだけスロープを設置して、車椅子でも寄り付けるような計画にしたいと考えています。それでも改修できない場合は、エレベーターを設置して、それと、ご高齢の方のためには、エスカレーターを設置を考えております。

それと誘導への配慮ということで、視覚障害の方とかのために、これは法令で義務付けられています。誘導床材、注意喚起床材の設置を考えてございます。サインはこれから決めていくことですが、カラーリングについては、コントラストの強い色彩計画を実施設計なりで進めていく段階で検討して行きたいと思っています。

次に動線計画についてご説明いたします。

(パワーポイントを使って客動線・楽屋動線の説明)

続いて、ユニバーサルデザインの基本的な考え方を説明したいと思います。今ある段差等の解消をバリアフリーと言います。一歩進めたものがユニバーサルデザインと言う考えです。幼児からお年寄りの方まで、全ての年代の方に使いやすい施設を目指すということから、ユニバーサルデザインという考え方を取り入れてございます。

まず、その中で私たちが考えましたのが、分かりやすい施設構成です。これは新しく、現在あるデッキを取ってエントランスホールを造る。それと展示室を広場側に出してくる。レストランもエントランスに面する位置に出してくる。そうすることによりまして、エントランスホールに入ったときに全体の施設配置が大体見えてくるようなことを考えて構成してございます。

それと今後の設計の中で、サイン計画が入ってきますけれど、出来るだけ絵文字、ピクトグラムというんですが、こういうものを使った計画を進めたいと考えてございます。最近では、外国人もいろいろな方がいらっしゃるしまして、前は日本語と英語の表記だけしていればいいという考えでしたが、最近では韓国語や中国語など、いろいろな言語が使われる方がいらっしゃるわけで、そういった方にも一目で分かるようなピクトグラムというサイン計画を提案したいと考えてございます。また階段とかスロープに、手摺が付くのは当たり前なことなんですが、ユニバーサルデザインという観点から平らな部分の廊下等にもできるだけ手摺等を整備してこれからの高齢化社会に向けての施設整備をしていきたいと考えてございます。

トイレについては、ホールを中心にしまして、数とかの整備、それと洋式化を進めますが、車椅子の方だけではなく、もっと赤ちゃん連れの方とか高齢者がいろいろ入って使っていただけるような多目的トイレというものを各フロアに設けていきたいと考えてございます。

安全性、災害時の機能ということでこれも基本的な考え方だけのご説明になりますが、安全性の高い施設計画ということを第一に考えたいと思っています。こちらにつきましては、耐震補強設計による認定を取得して、地震時にも安全な施設づくりをし、市民の方が災害を受けた時でも臨時宿泊所として利用できるような施設になるように計画を進めたいと思っています。また、避難安全検証法による安全性の確認をおこないます。災害時の拠点としての機能は、臨時宿泊施設への配慮、トイレや水の確保、非常電源、その辺りの施設整

備を進めていきたいと思います。

それと臨時宿泊施設と絡むんですけど、防災備蓄倉庫というものを建物の一部に備えまして、災害時への配慮をしていきたいと思っております。以上でございます。

(杉山会長)

ありがとうございます。今、説明をいただきました。それでは皆様からのご質疑、ご意見を伺いたいと思います。何かございますでしょうか。

(白井委員)

前回から文化会館の図面が出てきますが、私どもほとんど分からないですね。楽屋も普段入ったこともないです。本当に私どもは、通常、文化会館に出入りするの、大ホール、小ホールであってね、裏の楽屋関係は、私ども見当もつかないんですよ。2階もそうなんですけど、図面を説明されてもピンとこないところがあります。一度、要望としてはですね、見たいですね。私は、楽屋の方は入ったことないんですが、もし、出来れば、ちょっとご説明いただきながら1回案内していただきたいです。その時に図面でも持って入れば、その方が分かり易い気がするんですよ。ジャンルの中で関係されている方はいろいろと使われていると思うんですが、一般の人たちって言うのは実際分からない。ここにいる人も分からない人が多いんじゃないでしょうか。要望として見学をさせていただきたいと思っています。それと、細かい図面の中で出てくると思うんですが、非常口は何か印はありますか。

(A&T 建築研究所)

すいません。配布した図面上には表記はしてございません。非常口というのはホールからの出口のことなのか、建物の出口なのかというのがあるんですが。

(白井委員)

これから防災関係をやるにあたって、一番大事ななと思います。それと、実は文化会館の方も評議委員をやらせていただいております。いざ、災害の時、財団の人たちはできるのだろうか。先ほどもちょっとお話ありましたが、地域の人にね、協力も必要だとお話されましたけれども、平成20年にアンケートをとりましたが、やはり使っている人たちっていいですか、災害に関する危機管理が、こういった1つのアンケートの中で何もうたわれていない。だから、大きな災害が国内外で発生していますが、耐震補強をしたらそれでいいのかというところじゃないと思うんですよ。ちょっと気が付いたところで、今後どうされるかお願いしたいなと。防災に関わる話っていうのは、まだまだこれから出てくるのだと思うんですけど、お話にありましたバリアフリーですかユニバーサルデザインですか、これは結構だと思うんですよ。これは使い勝手だと思いますけれど、防災機能は非

常に奥深いものはあるかと思うんですよ。ですから、やっぱり利用者がね、安心してご利用いただけるような文化会館の構造にしていきたい。

(杉山会長)

ありがとうございます。今、白井委員から、お集まりの方のいろいろな立場の方がいらっしゃるので全体をご覧になったことがないということで、施設見学をされたいという意見がありました。これにつきましては事務局の方で検討していただくということでよろしいでしょうか。

(事務局)

毎日、使われている施設なものですから、例えば、本番が入っていると見学ができないということがあります。全体的に見られそうな時期を財団の方と検討して、できればそういう機会を設けたいと思います。

(白井委員)

この時間帯で全部見ようって訳じゃなくて、部分的で結構ですから、見させていただければいいと思います。

(事務局)

その辺は財団と日程を決めましょう。

(杉山会長)

皆さん、出演者としていらっしゃる方もあるし、お客さんとして、ここを知っているけれど楽屋は知らないなど、いろいろな方がいらっしゃると思いますので、ホールの空き等を見て、ぜひ1回、ご覧いただければと思います。

(事務局)

別に日を設定するか、あるいはこの協議会に日程を合わせてうまく空いているか、その辺を調整させていただきたいと思います。

(杉山会長)

非常口につきましては先ほど、A&Tさんからご説明していただきました。

(A&T 建築研究所)

図面で1回説明した方がいいですね。

(図面を用い、非常口について説明)

(大野アドバイザー)

よろしいですか。劇場・ホールというのは百貨店、それから不特定多数の方が集まるということでホテルは、厳しい法規制がございます。当然、これだけの改修をしますから消防署の検査を受けなくてはいけない訳で、消防署の指摘で、キャパシティに対してどれだけの避難経路が必要か、避難箇所に障害物がないかを全部チェックされます。それで法規に引っかかるようなことは指摘を受けますし、それに基づき直さなければいけないところも出てくる場合もございます。まずは図面上での検査があって、しかるときに立ち入り検査がございます。それで OK がないとこの施設としては許可になりません。その辺は、消防法規の中でも一番厳しい部類に入っているということでございます。多分、その辺のところでは不完全な状態ではないと思います。

(岩本副会長)

車椅子の方の動線なんですけど、1階からずっと行かなくてはエレベーターが無くて、2階で降りてからでもかなり距離を行かないとホールに行けないようなんですね。むしろ健常者の方が最短距離でホールに行けるような感じになっていますね。この辺の空洞の位置からエレベーターの位置を変えられないってことはあるんですかね。もう少し弱者のためのエレベーターの位置ってというのは考えられないのかどうか伺いたいんですが。

(A&T 建築研究所)

現在、1台設置してまして、その横にもう1台という考えで計画しています。エレベーターは、分散して設置するよりもまとめて設置した方が待ち時間とかの面での対応がだいぶ高まるんですね。場所的には奥まっているんですが、大ホールの方だけでなく、他の施設を使われる方も、ここのエレベーターも使うものですから、そういった意味で車椅子対応のエレベーターとして、この位置に2台設置させていただきました。

(岩本副会長)

それは分かっています。遠くないですかと聞いているんです。

(本杉アドバイザー)

物理的に近いか遠いかいうと、入口からは遠いというのは目に見えていることです。ただ、エレベーターは縦に通っているもので、階段とセットで計画されることが多く、単純に解決できない問題があります。階段とセットになっている意味は、ノーマライゼーションの観点からも好ましく、それらが近所にあることによって、階段で行ける人は階段を選択して上り下りする。あるいは階段位置が常に認知されていることが非常時において有効にな

るという理由です。エレベーターと階段がセットになった大きさがどこかに動いていくことになる、それなりのまとまった広さが平面的にも断面的にも必要になるということです。しかも、今説明にあったように、3階にある実技室や小ホール・大ホールそれぞれにも結びついてなければならないという条件を考えねばなりません。こうした場合、どこか1つが良くなると、どこか他にとっては良くなる結果になってしまうことがしばしばです。これら点を考えますと、現在計画されている位置でも、長さでいうと10m前後の差ですから、やむを得ない関係じゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

(岩本副会長)

車椅子を使っている方はちょっとくらい距離が遠くても大丈夫かもしれませんが。この動線は、松葉杖で歩いたり、あるいは松葉杖までいらないけれど歩くのが困難という方にとっては非常に辛いですね。新しく大ホールの方はバックの上手にエレベーターが新設されましたから、このエレベーターに一番早くいける動線を作ってくれるのが本当は一番良いんですがね。それしかないと言わず考えてください。時々、脚の悪くなる私としてはぜひ、歩行距離を短くしたい。

(本杉アドバイザー)

私が見た感じでは、階段が非常に多い現在の施設の中で、特に大ホールの周囲ですが、ホワイエと客席と便所との関係が大変に上手く解決されてきたのではないかなと思います。例えば前回の協議会で、できるだけ前の方に車椅子をというリクエストがあり、それは大変難しいんじゃないかなと思っていたんですが、今回の提案では、それが可能になっています。1階レベルにエレベーターで降りてきた車椅子の方が、現在ある階段をクランクして通りながら、それを上手く解決しています。しかも、便所の位置もほぼ同じレベルですね。これは10cm差があるのですか。

既存の客席下の高さや階段を気にしながら、これらのレベルをどこに設定するかという非常に微妙な問題を解いています。それを10cmくらいのレベル差でクリアできそうだということは、素晴らしい解決だといってよいと思います。上階のホワイエに便所も出来ましたし、下の階にも便所が新設されたということで、全体として非常にスムーズな動線に整理されたと思います。

(川口委員)

あの今、スクリーンに映されている1階の下のほうの多目的トイレの出入口はどっちですか。

(A&T 建築研究所)

大体、場所をこの辺にとりたいなということで、出入口はまだ決めていません。

(川口委員)

他のところはみんなあいているんです、あけるんですか。どこでもいいですから入口がないと。それともう1つ。藤沢の市民会館みたいなどころにあるエスカレーターは、段が2枚一緒になって動けるようにしてあって、車椅子が1台そのまま乗っかってエスカレーターが上がる下がるというものがあるんですが、そういった物は考えられませんか。

(A&T 建築研究所)

自動的にはなりません、対応は可能です。

(川口委員)

あそこにいる担当がスイッチを変えたりするんですよ。そうすると段差の方が2枚一緒になります。

(A&T 建築研究所)

その辺の方針としましては、茅ヶ崎の方と調整を進めまして検討させていただきます。いずれにしても、新たに入れるエスカレーターですので、仕様自体はこういうものでといったことは出来ますので、細部につきましても茅ヶ崎さんと決めさせていただきます。

(白井委員)

通路ですけれどね。ご提案ありました5本通路から4本通路っていうお話がありました。当然、いざ災害のとき、避難誘導にある程度影響がでてくるのかなって気がしていますが。その辺のところいかがお考えでございましょうか。

(A&T 建築研究所)

今、おっしゃられたのは大ホール客席の避難のことです。新しいプランはこちらに14列。真ん中15、14列とご提案させていただいています。この間もご説明させていただきましたが、ホールの椅子っていうのは人が立ち上がると座面が立ち上がります。立ち上がったところの前の人の背と自分の立ち上がった椅子の間の有効幅について法的に、何人の人が移動して行くかってことで、一人何センチっていう規定がございます。一応、それを元に設計しまして、避難には支障がないという考えです。

(白井委員)

今まで13席だったのが実際には15席になるのかな。その2席に、かなり影響がでてくるのかな。



(A&T 建築研究所)

そういったことを踏まえまして、新しく設計します。

(白井委員)

ちょっと私ども、素人考えでね。この通路を4本よりも5本の方がいいんじゃないかと思うんですが。

(A&T 建築研究所)

単純に横に移動していく数は少なくなりますけれど、また前回の議論、客席数の話にまた戻ってしまいます。

(白井委員)

災害時にちょっと影響出てくるかなと思います。

(A&T 建築研究所)

それは検証しまして、有効幅員を現在よりも広く確保するという方向で考えています。

(白井委員)

大ホール、非常口は2ヶ所です。

(A&T 建築研究所)

2階席の後ろの部分にもございますので、全ての出入口が非常口になってございます。先ほど、1階でご説明しましたので、この部分の4箇所なんですけれども2階席でいきますと、これが全部非常口です。多分、このあたりの方はこちらの扉が近いのでここから出られると思います。非常口としましては2ヶ所ではなく全ての出入口が非常口です。

(大野アドバイザー)

よろしいですか。お客様の動向っていうのをずっと見ているんですけれども。入ったところへ大体戻られます。それが1つの人間の本能で、入ったところに戻ります。こちらの方の2階のほうから入ってこられますよね。だから皆さん横へはあまり逃げない。その点は心配しなくてもよろしいんじゃないかと思います。縦の方へ逃げようとされます。

(白井委員)

そこはね、通路が1本少なくなることによって多少何か混乱が起こるのでは。

(大野アドバイザー)

それはほとんどないです。

(A&T 建築研究所)

あのすみません。元々4本なんです。位置を変えると5本になってしまうという説明をさせていただいたと思うんですが。

(大野アドバイザー)

壁際を通路にするのはすごくメリットがあるんです。素早く逃げれるんです。遅れてきた方も入りやすいんですよ。

(吹谷委員)

以前にお話になったかもしれませんが、小ホールと大ホールの出演者が入る入口ですけど、今は2つですけど、それが1つにまとめられています。使用上のセキュリティーをどのように考えられておられるのか。これが悪いということじゃなくて、どういう風にされるかが心配です。あと、前に要望か何らかでお話したと思うんですけど、楽屋（水色のスペース）が、ドアを1つあけますと、音が舞台の裏まで聞こえてくるんですよ。ですから、あそこの音響の遮断についてもう少し考えられないかなと。オレンジ色の動線が書いてありますよね。あのラインから舞台の方へ行く通路が下に行くにありますよね。そこを通ってドアを開けると舞台の袖まで音が聞こえてくるんですよ。もちろん静かにするのは当たり前ですが、どうしても楽器がチョコチョコと鳴ったりするケースがありますんで、それがお客さんに聞こえるっていうことになります。今もそういう支障が若干とれてないんですが、どんな風に遮断するかということもちょっと工夫していただきたいなと気がします。

あと、練習室の2と3が、現在の2と3の部屋の大きさと比べてどうなんでしょう。オーケストラのパート練習で40人くらいのグループで演奏練習するときがあるんですけど、そうしますと練習室1くらい部屋が、あれほど大きくなくていいんです。今現在の練習室2が限界くらいの大きさなんですけど、あれくらいの部屋が欲しいんです。これだけ分断されてしまうと、今のリハーサル室が使えるような形になっていますので、もしあれが本番が入ってますと使えないと思いますね。その辺のところを踏まえて、練習室が狭いのが気になります。その3点なんです。

(杉山会長)

ありがとうございます。前回の議題であったということで、今回バリアフリー・ユニバーサルデザイン・防災機能ということでお話しております。今、3点おっしゃっていただいたことはご意見として伺いする形でよろしいですか。

ただセキュリティーの関係は、防災の関係で先ほどA&Tさんからご案内いただいた大

ホール、小ホールの楽屋がまずは一箇所であり、入ったところに各ホールの楽屋事務室があって、そこでチェックを受けてという形でということですよ。

(A&T 建築研究所)

今の入口ですけど、外から入るところは一箇所ですが、楽屋に入る入口はそれぞれ独立して別々になっています。

(大野アドバイザー)

小ホールから楽屋に入るところに扉が 1 つあります。大ホールのほうの楽屋に入るところに扉が 1 つございます。その手前にそれぞれに事務室がございますから、そこでチェックして中に入っていただくということになります。

(吹谷委員)

そうなるんでしょうが、例えば、小ホールの楽屋事務室の方、または、守衛さんでも良いんですが、入って来られた方が、どちらの出演者の方か分かるかどうかだと思います。素通りで行かれる場合もある。

(大野アドバイザー)

これはルール上の問題になると思うんですが、だいたい館でそれだけの人を出すってことは、まず今はありえないと思うんでね。あとは主催者の方々が担当者を一人置いてくださいをお願いします。うちなんかは、うちの職員をそこへ張り付けることはできないので、主催者の方に必ず見分けられる方を用意してくださいをお願いします。

(吹谷委員)

今それはないですよ。

(杉山会長)

私が考えるには今、新しくなったほうがさらに良くなるんじゃないかと思います。今は、大ホールはノンマークなので危険な状態かと思います。逆に警備のところを通過して、さらに大ホールでチェックがあると、二段階のチェックになるので、今より良いんじゃないかと思います。

(本杉アドバイザー)

主催者じゃないと顔はわからないですよ。

(大野アドバイザー)

運営上で皆様にお約束なざることを考えることになると思うんですが。

(本杉アドバイザー)

練習室のことは、前回の議題かもしれませんが、とても大事な話だと思います。むしろご要望を言っていた方が、設計の方は取り組みやすいと思います。提案では、各練習室に控室があって倉庫があるという計画なんですね。

(吹谷委員)

そうですね。それが無駄なような気もしないわけではないんですが。

(本杉アドバイザー)

それが無駄なのか、そうでないかということですね。

着替えをし、物をそうしたところに置いて、練習するところをきれいに確保したいとなると、このような計画になりますし、それよりも広さが欲しいという人がいるかも知れない。それは、皆さんで協議されて決められた方がいいのではないかと思います。ただ、一つの団体の方が良いとおっしゃっていても、他の団体が悪いということがあるので、この件に関しては、みなさんで話し合いの場を用意されて検討された方がいいと思います。

(大野アドバイザー)

運用上の問題ですが、出来るだけ外部に貸したいとなると、この構成でないと具合が悪いのかなと思います。リハーサル室というのは大楽屋になっているんですが、オーケストラが来るときは、ここは楽屋でないと収まらないと思うんですね。そのようにフレキシビリティを持たせながら、そのとき一番使いやすい構成は、このような構成なのかなと思い、ご提案させていただいたんですが。

(吹谷委員)

私どもの合奏練習は、隣の総合体育館の地下のオーケストラ練習室を使わせていただいているんですが、管楽器だけ弦楽器だけの各練習の場合は、ここのホールを非常に有効に使わせていただいています。それにしても少し小さくなりすぎるのかなと思って質問したんですが。

(杉山会長)

今お話いただいた練習室の大きさとか楽屋の大きさにつきましては、いかがいたしましょうか？改めてお話する機会を設けたほうが良いということではよろしいでしょうか？

(一同同意)

(A&T 建築研究所)

何人ぐらいで練習をするのかを教えてくださいたいのですが。それが分かると面積が分かりやすくなるので。

(杉山会長)

それはリストなどで。

(吹谷委員)

はい。リストに書いたものをお渡しさせていただきます。

(杉山会長)

今の質疑に関連するかと思いますが、4Fの図面がない状態なんですが、先程各階に多目的トイレが入るということをおっしゃっていただいたんですが、4Fも多目的トイレがあるというように思っているのでしょうか？

(A&T 建築研究所)

付けたいとは思っております。

(杉山会長)

4Fの図面がないということは、これからまた話し合いがあるということですか。3Fは、実技室、4Fは大会議室と和室があるんですけども、その辺はまた練習室の話のときにお話ししていただける機会があるということでしょうか？

(A&T 建築研究所)

はい。

(岩本副会長)

よろしいですか。スタッフのオペレーションルームなんですが、これについても安全対策ということを考えるべきなのかなと。開演時に何かあったらスロープどころではなくスタッフは逃げられませんからね。

(大野アドバイザー)

お恥ずかしい話ですが、県民ホールでもそのような箇所がございます。何とかしたかったんですが構造的に無理がございまして。

(岩本副会長)

ですから、行くときはしょうがないにしても、逃げるときには、消防署にあるようなホールですぐに降りられるようにするとか、何かそのような逃げ場を作っただけならなと思いますが。

出来るだけそのようにスタッフのことも考えていただきたいのですが、大ホールは、わりかしスペースがとれるようなんですが、小ホールは4Fの図面がないのでなんともいえませんがオペレーションルームは4Fにあるんですよね。

(A&T 建築研究所)

そうですね。

(岩本副会長)

そこに行くにはどう行ったらいいんですか？下手の階段を上がってくるんですか？

(A&T 建築研究所)

小ホールの調光室などは、この上にあるんですが、そこに行くルートとしましては、こちらの階段で上がっていただいて、天井の上で廊下を歩きます。もしくは、この階段を上がっていただきますと、横の前室に入れるという2つのルートがございます。ですので、それほど危ないところではないと認識しております。

(岩本副会長)

スタッフの利用する場所というのは忘れがちなので、その辺の安全対策もしっかり行っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

(A&T 建築研究所)

はい。承知しました。

(杉山会長)

ありがとうございます。その他ございませんでしょうか？

(白井委員)

今日の議題ではないんですが、若いお母さんがベビーカーと一緒にトイレに行ける場所ってありますか。

(A&T 建築研究所)

ございます。

(白井委員)

ここでいいんですね。

(大野アドバイザー)

広くなっております。ここでオムツ取り替えもできるというのが現在の一般的な多目的トイレですね。

(白井委員)

現在それはないんですか？

(杉山会長)

現在はベビーベッドはありますが、小さい個室に赤ちゃんを座らせるものはないですね。その他いかがでしょうか？

(吹谷委員)

よろしいですか？私は、利用者側であまり利用したことはないんですが、展示室の天井というのは、今非常に開放的になっていますが、あの辺が今度フローアになりますよね。その辺の利用価値が落ちるといったことはないんですか？何か雰囲気は圧迫されるような気がするんですが。

(吹谷委員)

使う側としてそんな気がするんですが。

(松永委員)

今の天井が高いところは、ほとんど利用している人は、高さが高すぎて、良いと思っていないと思います。もう少し高さが中間であればいいんですが。また、奥のほうは低いんですよね。ですから平均して3.5mくらいですかね、それくらいが良いのではないのでしょうか？今は何mくらいあるのでしょうか？

(杉山会長)

5mくらいでしょうか？

(A&T 建築研究所)

現在は7mくらいです。

(松永委員)

7 mもあるもんですから、照明などが全く無視されてしまっている。

(大野アドバイザー)

今度は、吹き抜けのホールがありますから、もし大きなものを展示するという企画があれば、こちらを使ってもらいましょうね。

(松永委員)

予想されている天井高はどれくらいなのでしょう？

(A&T 建築研究所)

展示室は、今 3 m程度を考えているんですけども。

(岩本副会長)

3 mは低いですよ。

(A&T 建築研究所)

この部分は、既存のデッキを残しながら下に部屋を造ろうという計画でございまして、スラブの位置を移動できないものですから。あとは梁をどうするかですね。

(松永委員)

3 mは少し低くないですか？

(A&T 建築研究所)

現在の予想としましては、3. 1 mですね。現在の展示室は、低い方が2. 8 mですね。高い方で6. 9 mです。

(大野アドバイザー)

だから、今の低い方よりちょっと高くなるということです。

(松永委員)

それがぎりぎりですか？

(A&T 建築研究所)

現状の構造体を残した計画となっておりますので。



(松永委員)

下を低くするというのはいないんですか？

(A&T 建築研究所)

下を掘り下げれば不可能ではないんですが。

(岩本副会長)

どういう照明をつけるか分からないんですが、天井が低いと見ている人の頭を照らしてしまうんですね。ですから3.5mくらいあれば頭に当たらないんですが。作品に自分の影がかかってしまう。

(松永委員)

いろいろな展示を考えると、最低3.5mは欲しいんじゃないかな。書道の場合はぜんぜん関係ないんですがね。

(A&T 建築研究所)

構造体がございます、柱と梁と床のスラブで構成されてまして、柱は部分的に出てしまうのはしょうがないんですが、梁の形を露出しまして、その部分だけ天井を上げてしまうのは可能です。

(松永委員)

ここの部屋はどのくらいですかね？

(A&T 建築研究所)

2.6mか2.7mかなんかでしょうか。この部屋の天井より50cm高いです。

(松永委員)

まあ、部門によってです。なるべく、高い方が用途的には良いのではないのでしょうか？

(A&T 建築研究所)

そのあたりは、また実施設計の中で、どのような天井高で、梁が出て良いのか悪いのかというところに絡んできますので、またご提案させていただいて、ご意見をいただくかたちでよろしいでしょうか？

(A&T 建築研究所)

全面的に、梁の形を出さないで3.5mの有効をとる部屋でないといけないとなると出来

ません。既存のデッキを使っておりますので、その部分を壊して新たに造るとなると予算的に難しいかなと。

(松永委員)

ありがとうございます。

(杉山会長)

その他いかがでしょうか？

バリアフリー、ユニバーサルデザイン、防災機能についてご説明いただきましたが、何かございませんでしょうか？ないようでしたら議題2「その他」に移ります。

みなさま方、または事務局から何かございますでしょうか？

(A&T 建築研究所)

前回の協議会で、大ホール・小ホールの客席についてお話をさせていただきましたが、その会議の席上で、2階席の客席の並びが横に長いと一番先頭の席の方が横に歩く際に怖いのではというご意見がありまして、そのあたりのレイアウトの見直しをしてみました。その案についてご説明させていただきます。

(A&T 建築研究所説明 (プロジェクター再度使用))

まず、既存の客席の配置でございます。

前回の協議にでました2階席のレイアウトです。既存の客席が、横に7席、9席、12席、9席、7席という配置になっております。ここに新しい案を重ねてみます。

Aとして重ねたものが、既存にわりと倣ったかたちで、7席、9席、9席、9席、7席となっております。最大で9席になります。ですので、真ん中の方が横の通路に出るまでには、4席横切ることになります。このときに、客席の数が変わります。前回の説明で、1401席だったと思うんですが、最大9席のレイアウトに変更したときに、27席既存から減ってしまって、1373席というかたちになります。この、マイナス27席がよろしいのかどうか、ということになってくかと思いますが、1400席を確保するのか、それともこれでよろしいのかです。

27席の減少が多いか少ないかは、判断できませんが、もう一案作ってみました。それがBになります。

Bは、真ん中に中通路があるんですが、そこから前の席につきましては、Aと同様7席、9席、9席、9席、7席となっております。そして、中通路から後ろの部分を前回ご提案させていただいた最大15席のレイアウトに戻したときの客席数の比較の案でございます。この場合は、結論から言いますと先程のAに比べ、16席回復いたしまして、1389席となりま

すので、既存の 1400 席と比べますと、マイナス 11 席で作ることが可能でございます。

この両案を、一階の前回ご提案したレイアウトに当てはめてみたものです。

A で、舞台に立ったときに一番目立つのが、この縦の通路になるんですが、一階席と二階席で若干ズレが生じるということでございます。B も同様に、一階の前回ご提案したレイアウトに、先程の中通路を挟んで配置を変えたものがございます。

両案ともご意見をいただきまして、1400 席に近いものとなると、B ではないかというように考えておりますが、皆様のご意見を伺いたいと思っております。よろしく願いいたします。

(杉山会長)

ありがとうございます。ただいま A&T さんから、二階の客席に関する 2 つの案をご説明いただきました。A 案は 26 席減る。B 案は 11 席減るというようになりますが、皆様ご意見がありましたら是非お聞かせください。

(本杉アドバイザー)

僕は B のつもりでいました。中通路よりも上側は、危険度が少ないですから、最前列さえ安全が確保できれば大丈夫だと思います。ただ最前列だけというのは出来ないもので、A・B のようになりますが、そういうことを考えると B 案のほうが良いのかなと思います。

(大野アドバイザー)

よろしいですか。こちらの会館で、年間 2 階席まで満員になることはどのくらいありますか？

(岩本副会長)

3 回か 4 回程度では。

(大野アドバイザー)

その程度であれば私は、Bの方がよろしいかと思いますが。

(杉山会長)

満席になるのは、一般の人が催すものに関しては、そんなには多くありませんが。

(川口委員)

2 階席の手摺部分の危険性というのは、他にいい案というのはありませんか？生徒を入れるとあそこの部分までいっぱいになるんですが、親がすごく心配するんですね。転落したらどうするんだと言われたことはあります。

(和田委員)

小学校で大きな会を催す際は、最前列はすべて空けております。最初からそこだけは危険ですので、大きな会を催す際は着席させないようにしております。

(杉山会長)

信用という面で私ども安全が一番ですので、お子様が多い場合は、監視員の方などを増やすというかたちをとらせていただいております。物を落とすということも3年に一回ぐらいはありますが、ハンカチなどですので。人が落ちたというケースはないですが。

(本杉アドバイザー)

座席の前の手摺を高くすることは難しいのですが、降りていく突き当りのところは、その部分の手摺を高くすることで、不安感を少し軽減させることができると思います。ただ、横に移動するときにも安心感を十分保てる手摺を作りますと、座席に座って舞台を見たとき、それが邪魔だということになってしまいます。

(川口委員)

まあ危険なものですからね。大ホールを利用する際は、小ホールも一緒に借りまして、2階席をなるべく使わないようにして、待ってる子供たちは小ホールで待つと。出演する子供たちだけが出てきてですね、順番にやらせるんですけれども。

(A&T 建築研究所)

手摺のデザインを考えるということは出来ますね。奥行きをとりましてサイトラインをきらない様にするという、その辺は考えられると思いますが。

(大野アドバイザー)

階段部分へ一段高い手摺があるというのは、劇場でやっているところはいくつかあります。やはり、体が勢いで二階から落ちられると困りますから、手摺の問題はどこでも問題になるんですね。安全上法律で決まっていますが、それよりも高くすると、今度は、見ているお客様から邪魔だというクレームが入るんですね。そうなってくるとぎりぎりのところで抑えるわけですけれども。今最近の若い方たちはスタンディングするんですね。その際、アナウンスで絶対に言いますし、主催する方に必ず監視委員をつけるようにといます。それができないようであれば、やめさせるように義務付けています。監視員をつける他に手がないですね。そのように、運営上注意はしております。

(白井委員)

実際、今の文化会館は、やる方と見る方がおりますが、やはり我々の考えとしては見る方の立場から考えるというのは、市民の方の希望だと思います。そうなりますとA、Bですが、11席、27席というマイナスの数字が出てきますが、お客さんがゆったり見れた、聞いた、良かったということが目的なのではないかなという気がするんですけどもね。前回の話の1400という席数になぜこだわるのかということについて発言させていただいたんですが。本来であれば、見る側にとって、聞く側に立って考えていくのがいいのではないかと思います。私は、市民の立場から申し上げたいなと思っているんですが。やはり、多少席が少なくなっても、市民の皆様が良かったと思っただけのような考え方のほうがいいのかなと思います。ですから、席が少なくなってもそのような方向で考えていただきたい。先ほどの満席の状況が年に1回、2回ということも含めて考えていただければなと思います。

(本杉アドバイザー)

座席の寸法は変えずに、通路部分をどのように計画するのかなどといった問題は、今後実際に設計していく上で調整していくことになると思います。ですから、考え方がこういう方向で良いということであれば、具体的調整は設計者にお任せしてよいと思います。AとBは決して悪くなっているということではないのでね。

(白井委員)

考え方としては、見たときに来て良かったという印象を与えた方がいいと思いますが。やる方の側としても、ご要望あると思うんですが、やはり市民の素直な考えを形にさせていただきたいと思います。

(杉山会長)

はい。本当に安全で、気持ちよくゆったり見れて、なるべく席数は減らさないということが重要です。この考えに一番近い席数や配置を考えていただければなと思います。

私は、非常にいい案を作ってくくださったなと思っているんですが、皆様はいかがでしょうか？

(吹谷委員)

よろしいですか？私は今皆さんのお話をお聞きしまして、それならAの方が良いなと考えております。27席減るんですが、1400席を切ったら多分ほぼ同じであろうと。1300席にながしとなれば、より安全で、舞台から見ても整然と並んでいる方がいいのではと思いますし、真ん中に一本あるというのは、あまり関係ないかと思います。

(大野アドバイザー)

2階席の奥になりますと大して変わらないと思いますが。

(吹谷委員)

普段満席になることがないので、影響はないですが、そろえた方がよろしいのかなと思ひまして。どちらにしろ、より安全という面でいいのかなと思ひまして。

(本杉アドバイザー)

一番前は、A・B共に変わらなく、後ろ側には廊下があって段も付いていますので、見やすさは変わりません。真ん中に踊り場がある状態ですので、仮にここで転んだとしても、二階席の後ろの段から1階に転落することは考えにくい。しかし、最前列だけは、横に移動するときには多少危険性を感じるのかなということです。全く新しいホールをつくるのであればこうした問題はないかと思ひますが、現在あるホールに慣れている人たちにとっては不安かなと思ひたので前回申し上げました。ですから、後ろの座席が15席並んでいる部分は長いかも知れませんが、2座席分隣りに移動させたりするなどの工夫によって、全体的に長い座席配置になりません。現状とあまり使い勝手上変わりませんので、安全性の面では、十分にクリアできていると思ひます。

(吹谷委員)

最前列の手摺なんですけど、高さというのはどのくらいなんですか？

(A&T 建築研究所)

現在のホールの実測値は覚えておりませんが、立ち上がりが60cmございます。その上に、手摺がついているんですけど、それが床から75cmというのが一般的です。

(吹谷委員)

ちょっと法律が違うと思うのですが、私労働安全衛生法で調べましたら、最低90cm必要とあったんですけど。

(A&T 建築研究所)

建築基準法では、通常110cmというのが決まっているんですけど、このようなホールの場合ですが、特例が認められています。というのは、座席に座ったときに、前の人の頭を越えて舞台を見る訳なんですけど、その時に110cm立ち上がってしまうと見えなくなってしまうんです。そのような点から、腰で60cm、手摺が75cmというのが、大体どこの行政でも一般的な数字になっております。それと、この手摺で腰の外側部分が垂直に落ちていると恐怖感などがあるかと思うんですけど、それを和らげるために、腰のはね出しといいますか、多少斜めになっていて、サイトラインにかからない程度になっているのが現在のバルコニ

一席の形です。

(杉山会長)

ありがとうございます。その他いかがでしょうか？特によろしいでしょうか？  
では、A案・B案出していただいたんですが、協議会全体での希望を確認した方がよろしいでしょうか？まとめ方といたしましては、今回ご意見をいただいた中で茅ヶ崎市さんと協議をしながら基本設計をまとめていくということでよろしいでしょうか？

(一同同意)

はい。ありがとうございます。

その他、皆様方からまた、事務局の方から何かございますでしょうか？

(事務局)

事務局の方から。次回の協議会の日程の方ご説明させていただきます。次回が11月4日水曜日。時間が14時から16時までとなっております。場所ですが、市役所の本庁舎7階第2会議室で行います。よろしくお願いたします。

(杉山会長)

はい。ありがとうございます。では、次回は11月4日水曜日14時から16時で市役所の本庁舎7階第2会議室ということで会場の確認がございました。

(A&T 建築研究所)

前々回くらいに要望に対する回答ということで、一度やらせていただいたんですが、その席上で質問の意味が分からなかった部分があるんですが、調整されたものが何か出てきたんでしょうか？

(杉山会長)

文化団体協議会さんの文章の意味をもう少し確認したいということがあったと思いますが。

(A&T 建築研究所)

そろそろ、基本設計が方針のまとめということで、出来ましたらいただけないかなと思ひまして。

(杉山会長)

では、この話は、終わってから確認させていただくということで、よろしくお願いたします。

他によろしいでしょうか？では、本日の協議会を終了いたします。長時間にわたるご協議  
ありがとうございました。お疲れ様でした。